



項目		評価	評価の分析と課題	改善策・向上策
教育課程 生活教育	①個別プラン	A	・複数の教師で児童生徒の実態把握を行い、個別プランを作成した。個別教育相談会で丁寧にやり取りできた。	・項目や記述内容について、検討・精選していく。 ・これまで同様に丁寧な提示と説明を行っていく。 ・プラン内容を確認し、活動づくりに生かす。
	②教育活動	A	・学部内や学部間のつながりを検討しながら、個のニーズに応じた活動づくりができた。大学の助言者との連携を深め、個々の学びに焦点をあてた事例研究の成果といえるのではないかと。	・大学等と連携した研究をとおして、児童生徒が主体的に取り組める活動づくりを進めていく。 ・より適切な教材や支援の在り方について検討する。また、発達段階に応じた課題を設定していく。
	③情報共有	A	・各種おたよりや連絡帳、相談会等をとおして、活動の様子を伝えることができた。 ・連絡アプリ（コドモン）を活用し、情報共有することができた。	・より効果的な情報共有の手段やタイミングについて検討し、保護者に説明する。連絡アプリ（コドモン）を用いた情報発信を進める。 ・個人情報保護に十分留意しながら、ホームページ等での適時の情報共有に努める。
生徒指導 保健教育	④安全教育	A	・避難訓練後におたよりを発行し、訓練の様子を具体的に伝えることができた。日常実施している安全教育についても、連絡帳等を通じて伝えることができた。	・今年度同様、学校で実施している安全教育の内容について、おたより等をとおして、保護者に周知していく。
	⑤情報教育	A	・個々の実態に応じて、個別学習や集団活動の中で、タブレット端末の活用や情報モラルについての学習を実施した。 ・「インターネット安全安心利用通信」のホームページを連絡アプリ（コドモン）を使用して保護者に周知した。	・個々の実態に応じた情報機器の扱い方や情報モラルについての学習を行う中で、外部講師の活用も検討していく。 ・学校で実施している情報教育について、おたより等をとおして、保護者に周知していく。
	⑥保健教育 ・食育	A	・養護教諭や栄養教諭と連携し、児童生徒の実態に応じた保健教育・食育を行った。 ・保健教育や食育について、ホームページやおたより、連絡帳等で伝えることができた。	・養護教諭や栄養教諭と連携した教育活動について、さらに効果的な取り組みを検討する。また、長期休業中の生活や運動習慣について啓発していく。
進路指導 キャリア教育	⑦キャリア教育	A	・児童生徒の実態把握を丁寧に行いながら、キャリア発達（自己理解、他者理解、コミュニケーション力、働く力、自己選択など）を意識した活動づくりを行った。	・キャリア教育の視点を意識した、児童生徒のニーズに応じた教育活動を継続して設定する。
	⑧進路学習・ 進路指導	A	・見学会や学習会、進路だより等で児童生徒や保護者のニーズに応じた進路に関する情報を適宜発信することができた。 ・相談支援専門員も交えた進路相談や、生徒や保護者のニーズに応じた情報提供を行った。	・進路や将来の生活に関連する情報を整理し、児童生徒や保護者のニーズに合ったものを学習会や相談会等で共有する。 ・進路相談や現場実習、体験実習について、より生徒のニーズに合った時期や方法について検討する。
教育相談・ センター的 機能	⑨教育相談	A	・児童生徒対象のおしゃべりタイムを定期的実施したことで、児童生徒の現状について理解が深まり、日々の生活に生かすことができた。	・より児童生徒や保護者のニーズに沿った各種相談会の実施方法について検討する。
地域交流	⑩地域交流	B	・各学部の教育活動を生かした交流につながるように、内容や方法について検討し、居住地校交流や学校間交流、虹の市等の地域交流を実施した。 ・互いの学校行事等の関係で複数回の交流実施が難しい現状や、地域交流の実績が保護者に十分に周知されていないこともあった。	・本校の児童生徒や交流相手のニーズに応じて、日頃の生活に関連した交流活動を計画・実施していく。 ・地域交流の内容をおたよりや連絡帳等で適時に発信する。